

## 一般社団法人 日本助産学会ニュースレター



### 第31回日本助産学会学術集会の報告

第31回日本助産学会学術集会会長 葉久 真理  
(徳島大学大学院医歯薬学研究部助産学分野)



第31回日本助産学会学術集会を、2017年3月18日(土)、19日(日)の日程で阿波の国『徳島』で開催させていただきました。学会当日は、晴天に恵まれ973名の方にご参加いただきました。ご参加下さった皆様、学術集会運営にご協力・ご支援いただいた皆様に厚く御礼を申し上げます。

本学術集会では、「家族の調和をはかる助産学」をテーマに、様々な状況にある女性とその家族への支援を学び考える機会となるようプログラムを構成いたしました。会長講演では、「調和がとれない」という家族の実態と、この状況を防ぐ手立てを検討するために、必要となる知と技を集約した本学術集会のプログラム構成について紹介させていただきました。基調講演1題、教育講演5題、特別講演1題、シンポジウム4題、ワークショップ2題、市民公開講演4題、そして交流集会、自由集会と盛りだくさんの内容で、「聞きたい講演が重なり残念だった」との意見もいただきました。申し訳ありませんでした。また、本学術集会での演題発表数は、一般口演86題、ポスター発表106題であり、多様な研究テーマがみられ、助産学の広がりを感じました。この成果をさらに発展させ、新たな知見と技の創

出に繋がることを期待されます。

懇親会では、徳島の定番『阿波踊り』で、参加者全員が踊り笑い感動し、大変盛り上がりました。お疲れさまでした。

さらに本学術集会では、これまでとは少し異なった取組みもありました。その1つは、定時社員総会と定時学会総会の同時開催です。より多くの参加者を得て総会を開催するために、軽食を準備しておりましたが、交通渋滞により京阪神からのバスの到着が遅延し、残念ながら多くの参加者を得ることができませんでした。もう1つは、『一般女性が参加可能なプログラムを組み入れる』方針の基に、市民公開講座の他に、市民公開教育講演と市民公開特別講演を企画いたしました。2日目の最終講演となった市民公開特別講演にも、多くの皆様の参加をいただきました。さらに閉会式も閑散となることなく、盛会裡に終えることができました。この閉会式では、優秀学生ポスター賞として、鳥取県立倉吉総合看護専門学校が全国助産師教育協議会会長賞を、金沢大学大学院が日本助産学会会長賞を受賞され、賞状とクリスタル時計が授与されました。また、ポスター発表をされた学生さん皆さんに参加賞(USB)をお渡ししました。これからの活躍が大いに期待されます。

最後に、宿泊アンケートを提出いただいた方には、棒ういろ1本進呈ということで、大勢の皆様から宿泊アンケートを記載いただき(916泊)、徳島県からの補助金を得ることができました。ご協力ありがとうございました。

30周年の区切りを超えて、新たな時代に入った助産学会が、さらに大きく発展していく明るさを感じながら、次の第32回学術集会にバトンを繋いでいきたいと思っております。引き続きよろしくお願いたします。



片岡弥恵子氏、坂井明美氏、中田かおり氏

**功労賞** 坂井 明美 氏

(表彰理由) 坂井明美氏は、日本助産学会初期より学会活動にご尽力されました。評議員として6期、監事1期を勤められ、学会の基盤づくりから助産学の発展に向けて後進の育成に貢献されました。質の高い助産ケアと研究実績、古都金沢市という地域に根差した助産活動を展開され、本学会を牽引してくださいました。平成13年3月には「21世紀における助産学からの羅針盤」をテーマに、第15回日本助産学会学術集会(金沢市)を開催され、多くの助産師に未来志向の発想と希望を与えられました。このように坂井氏は、本学会の運営・発展に多大な貢献をされ、今日の日本助産学会並びに助産学の発展に寄与した功績は大きく、数多くの功労を納められました。

**奨励賞** 片岡 弥恵子 氏

(表彰理由) 片岡弥恵子氏は、現在、聖路加国際大学看護学部の教授としてご活躍されています。大学院での助産師教育およびウイメンズヘルス分野において、教育並びに研究活動に精力的にたずさわり、多くの助産実践・教育・研究者を育成してこられました。とりわけ、平成26年度から平成27年度にかけて、本学会の副理事長として、また平成27年に横浜で開催された第11回 ICM アジア太平洋地域会議・助産学術集会の企画・運営等に多大な貢献をされました。

アジア太平洋地域の助産師および多くの助産師学生が、ともに助産の英知を研鑽できた素晴らしい大会を成功に導いた功績が高く評価されました。

**学術賞** 中田 かおり 氏

(表彰理由) 中田かおり氏は、聖路加看護大学(現聖路加国際大学)大学院博士課程を修了し、現在は国際医療福祉大学保健医療学部看護学科の准教授としてご活躍されています。研究は、「妊婦の体水分バランスに関する研究」をテーマに取り組まれています。今回の学術賞の論文である「生体インピーダンスによる妊婦の体水分と妊娠・分娩異常との関連：パス解析を用いた検討」では、妊婦の体水分を表す指標と「切迫早産およびその疑い」、「低出生体重」、「妊娠期の血圧上昇」との関連を明らかにし、体水分評価指標を用いた基準値探索の必要性を示唆しています。本研究成果は、助産実践の科学的な根拠となり、正常逸脱を早期に発見するための指標開発に繋がることが期待されることから高く評価されました。



この度はこのような栄誉ある賞を賜りまして、誠にありがとうございました。ご推薦・ご選考いただきました先生方、そして本研究にご協力いただきました妊婦の皆様、施設の責任者・スタッフの皆様、研究補助をくださった皆様、研究をすすめるにあたりご指導をいただきました先生方、そのほかさまざまにご支援をいただきました皆様に、心より感謝申し上げます。

私が妊婦の水分摂取に興味を抱いたのは、大学院生として米国のペンシルベニア大学病院で臨地実習をしていたときでした。切迫早産の妊婦に対する保健指導の中に、「水分をたくさん摂るように。」という内容がありました。理由を尋ねると、「妊娠中は循環血流量が増加するので、妊婦は水分摂取量を増やす必要がある。循環血流量が少ないと、子宮が虚血状態になって攣縮し、切迫早産の症状が起こりやすくなる。その予防のために水分摂取を促している。」という答えが返ってきました。

思い返してみると、以前私が働いていた産婦人科病棟には、常に複数名の切迫早産の妊婦が入院していました。その中で、早産になった事例はごくわずかで、むしろ正期産期に入ってもなかなか陣痛が発来せず、予定日超過で分娩誘発にいたる事例は少なくありませんでした。米国で切迫早産に対する保健指導を聞いたとき、もしかしたら切迫早産で入院していた妊婦の中には、切迫早産様の症状を発症していただだけで、十分な水分摂取を促されていたら発症しなかった人がいたかもしれない、そもそも妊娠中の適切な水分摂取とは何だろう、と思いました。そしてこの思いが、後に本研究に取り組むきっかけとなりました。

適切な水分摂取量を検討するためにはまず、妊婦の体水分を把握する必要がありました。しかし、妊婦の体水分をあらわす、明確な指標は見当たりませんでした。妊婦の体水分を自宅や妊婦健康診査などで簡単に把握できる方法はな

いかと思い調べたところ、体組成計として一般に普及している「生体インピーダンス法」が目にとまりました。非侵襲的で簡便、安全な技術であり、妊婦の体水分の推定に適した方法と思いました。

しかし、生体インピーダンス法で測定される数値には、基準値がありません。得られた数値の判断基準をどうするか、悩んだ末、妊娠・分娩アウトカムとの関連を示すことによって正常値の範囲を規定できるのでは、と考えました。また、体水分量の評価を、生体インピーダンス法のように直接体水分量を測定できない方法で行う場合には、複数の方法を組み合わせて実施することがすすめられています。約10か月間データ収集を行い、いく通りもある因子間の相関をひとつひとつ確認しながら分析をすすめました。

ところが、望んでいた結果はなかなか見つけられませんでした。私が考え付く程度のことはすでにもっと優秀な人たちが思いついたであろうから、今さら自分が取り組んだところで結果が出るわけない、と卑屈になったときもありました。それでも、さまざまなかたちでご支援くださった皆様のおかげで、この度一部ではありますが、かたちにすることができました。

助産に関する研究はどのようなテーマであれ、私たちがケアし、サポートする女性、赤ちゃん、そしてその家族の健康と安全に役立つものでなければならぬと思っています。その意味では、私の研究はまだまだ、臨床でお役に立てるレベルではありません。いつかお役に立てる日がくることを信じて、これからもコツコツと取り組んでいきたいと思っています。そしてこれからも、微力ではありますが、助産学の発展にお役に立つことができるよう、助産師としての日々の仕事に取り組んでいきたいと思っています。この度は本当に、ありがとうございました。

**応募締切日：2017年11月17日（金）  
消印有効**

日本助産学会では、本学会の会則に基づき、助産学に関する研究を推進するために研究費用の一部を助成し、助産学の発展をはかり、わが国の母子保健に寄与することを目的に研究助成を行っております。

2018（平成30）年度の研究助成申請は、以下の要領にしたがって手続き下さいますようお願いいたします。

**応募資格**

- ・日本助産学会員として2年以上加入している会員であること
- ・研究分担者は会員であること（加入年数は問わない）

**申請書の請求**

日本助産学会ホームページ (<http://square.umin.ac.jp/jam/>) 「研究助成案内」から【申請書】をダウンロードし、必要事項を記入の上、事務局宛にご送付ください。

**研究課題**

奨励研究

助産学の発展、助産実践の改善と開発、その他母子保健領域の学術的研究等。

**助成規模**

助成金額は2種類

- 1) 奨励研究助成A：助成金額が、1件あたり100万円以内。1件程度
- 2) 奨励研究助成B：助成金額が、1件あたり30万円以内。3件程度

**助成期間**

研究者への助成期間は、原則として2年間とする。

**助成者の決定および通知**

助産学会理事会で審議、採否決定後、主研究者に通知いたします。

**応募に関する留意点**

申請書は、楷書（パソコン等での作成を推奨）でご記入ください。

申請書並びに別刷り、参考資料等の提出に関しましては、ホームページの助成実施要項をよくご確認ください。

提出された申請書は返却いたしませんので予めご了承ください。

最終に提出された報告書は、原則として日本助産学会のホームページに掲載する予定です。

**問合せ先**

一般社団法人日本助産学会事務局  
〒170-0002 東京都豊島区巢鴨1-24-1  
第2ユニオンビル4F  
（株）ガリレオ 学会業務情報センター内  
TEL：03-5981-9826 FAX：03-5981-9852  
E-mail：g019jam-mng@ml.gakkai.ne.jp

**多数の応募をお待ちしております！**

2017年度 助産政策ゼミ～助産政策に必要な助産ケアのエビデンス（全6回）ご案内  
助産政策委員会

助産ケアが診療報酬で評価されるためには、どのようなエビデンスの蓄積が必要なのか、助産ケアの評価と診療報酬について、基礎解説及び具体的な取り組みを通して学びます。ぜひ、ご参加ください。

日時：

5月14日(日)、7月23日(日)、8月27日(日)、  
9月24日(日)、10月22日(日)、  
11月23日(木祝)

場所：日本赤十字看護大学 203 教室

内容に関する詳細は、下記ページのチラシもしくは、日本助産学会ホームページに掲載しています。ご覧ください。

[http://square.umin.ac.jp/jam/docs/20170425\\_doc.pdf](http://square.umin.ac.jp/jam/docs/20170425_doc.pdf)

**主催：一般社団法人 日本助産学会 助産政策委員会**  
**助産政策ゼミ**  
**助産政策に必要な助産ケアのエビデンス**

助産ケアが診療報酬で評価されるためには、どのようなエビデンスの蓄積が必要なのか、助産ケアの評価と診療報酬について、基礎解説及び具体的な取り組みを通して学びます。ぜひ、ご参加ください。

	日時	内容
第1回	5/14(日)	助産と政策について：今、なぜ助産政策なのか？
第2回	7/23(日)	Lecture:訪問看護ステーション起業立ち上げの know-how 「助産師による切迫早産妊婦の訪問看護・指導料の要望」の取り組み
第3回	8/27(日)	Lecture: 診療報酬評価:技術評価について 乳腺外来との連携について 「乳腺炎管理技術指導料の要望」の取り組み
第4回	9/24(日)	Lecture:診療報酬評価:体制評価について 「助産外来・院内助産所に対する体制評価の要望」の取り組み
第5回	10/22(日)	Lecture: 研究からみる混合病棟の現状と課題について
第6回	11/23(木祝)	Lecture: 助産政策立案のための研究について ～助産政策に結びつけるためには、どんなデータが必要なのか？～

**参加費 1回** 会員：1,000円、非会員：2,000円  
学生・院生：無料

**時間** 13:00～15:00

**会場** 日本赤十字看護大学 203教室  
東京都渋谷区広尾4-1-3 (日比谷線広尾駅徒歩15分)

●お問い合わせ・申し込み●  
参加希望の方は、お名前・ご所属・参加希望日を下記のアドレスまでお知らせください。なお、参加費は当日ご持参ください。  
片岡弥恵子（聖路加国際大学） E-mail: kataokakaken@slcn.ac.jp

## ICM 募金の御礼と継続支援のお願い

一般社団法人日本助産学会事務局

日頃から、皆様方の暖かいご支援とご協力をいただき感謝申し上げます。  
今回、坂井明美様から募金をいただきました。  
ご協力、誠にありがとうございました。

ICM 支援のための募金を、常時受付けております。  
引き続きのご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

### ☆ICM スポンサー・ア・ミッドワイフ(国際基金)☆

発展途上国の助産師の参加用援助としての募金です。

一口 2,000円

振替口座番号:00190-8-710931

加入者名:日本助産学会国際基金

### ☆ ICMセーフマザーフッド基金 ☆

世界で妊婦死亡率・罹病率が最も高い地域における助産知識の発展を支援する募金です。

一口 1,000円

振替口座番号:00240-8-6818

加入者名:日本助産学会ICMセーフマザーフッド基金

## 事務局からのお知らせ

一般社団法人日本助産学会事務局

### 今年度会費納入について

本学会は皆様の会費をもとに運営しております。  
円滑な事業推進のため、お早目の会費納入をよろしくお願い申し上げます。

なお、今年度は代議員および理事・監事の選挙の年です。6月末までの会費納入者が選挙人対象者となりますのでご了承ください。

また、過年度の会費納入がまだお済でない方は今度分と合わせて、早急にお振込み下さい。  
会費納入・会員番号等に関してご不明な時は、事務局までお問い合わせ下さい。

・郵便振込:00120-2-763540

加入者名:一般社団法人日本助産学会  
通信欄に会員番号と納入年度を明記

・銀行振込:ゆうちょ銀行(9900)

〇一九(ゼロイチキョウ)店(019)

(当座)0763540

一般社団法人日本助産学会(ジャ)ニホジヨサガツカイ  
氏名と会員番号を通知

振込忘れや振込の手間を省ける口座引き落としの方法をお勧めしています。郵便振替から口座引き落としへの変更を随時受け付けていますので、下記問い合わせ先にE-mailかFAXでご連絡ください。

学会誌投稿(共同研究者含)、学術集会演題応募(共同研究者含)、研究助成応募(研究代表者)等は、会員で該当年度の会費納入済みが条件になります。応募される場合は、お早めに会費納入をお済ませの上、お申し込み下さい。また、会費納入が遅れますと学会の諸情報の送付が滞りますのでご注意ください。

なお、今年度より年会費の書類(請求書・領収書等)の発行が会員情報管理システム上から、オンラインでの即時発行が可能になりましたので是非ご利用ください。

詳細はこちら:

[http://square.umin.ac.jp/jam/docs/receipt\\_isuance\\_manual.pdf](http://square.umin.ac.jp/jam/docs/receipt_isuance_manual.pdf)

※但し「口座引落」ご利用の方は、振替結果データ受信後となるため日程の都合上オンライン領収書の発行は、引落日から一週間後以降となりますのでご了承ください。

### 変更届について

住所等の変更に関しては、オンライン会員情報管理システム(詳細は下記)で変更手続きが出来ますのでどうぞご利用下さい。以下のホームページからID(会員番号)とパスワードをご入力の上、ログインいただき、ご希望の手続きを行ってください。  
オンライン会員情報管理システム:

<https://service.gakkai.ne.jp/society-member/auth/JAM>

ID・パスワードがご不明の場合は事務局宛お問い合わせ下さい。

オンライン会員情報管理システムがご利用にならない場合は、変更届の書式は問いませんが必ず書面(E-mail・FAX・はがき等)に明記して、その都度お早めにお知らせください。本学会ホームページからも「変更・退会届」の書式がダウンロードできますのでご利用ください。

変更届は必ずお出してください。学会誌等が届かないような場合は事務局までご一報ください。

## 退会届について

退会届の書式は問いませんが、必ず書面（E-mail・FAX・はがき等）でお知らせください。

本学会ホームページからも「変更・退会届」の書式がダウンロードできますのでご利用ください。

\*次年度から退会希望の方は、必ず1月末までに退会届け出をお願いします。

退会連絡がない限り会員継続となり、年会費をお納めいただくこととなります。

特に口座引き落としご利用の方で退会希望される方はご注意ください。会費引き落とし後の退会の会費についてはお返しできません。

ただし会費納入年度の学会誌等は送付しますので、十分にご理解いただきたくよろしくお願い申し上げます。

## 学会誌バックナンバー等の販売のお知らせ

日本助産学会誌バックナンバー第20～29巻は2,500円、30巻は3,500円(各1部)。

日本助産学会暦年記録は、1部3,000円。

送料は申込者負担です。在庫に限りがありますのでご希望に添えない場合はご容赦願います。

申込み方法は、本学会ホームページから申込書をダウンロードして、申込希望を記入して事務局宛にE-mail添付送信するか、FAXしてください。

※「エビデンスに基づく助産ガイドライン—妊娠期・分娩期 2016」は、委託販売（榊日本助産師会出版）となっております。

申込方法は、以下のURLからの申込みとなります。

<http://www.midwifepc.co.jp/fs/shuppan/shoseki/I-0002>

## 一般社団法人日本助産学会事務局

〒170-0002 東京都豊島区巢鴨 1-24-1

第2ユニオンビル 4F

株式会社ガリレオ 学会業務情報センター内

TEL:03-5981-9826 FAX:03-5981-9852

E-mail: [g019jam-mng@ml.gakkai.ne.jp](mailto:g019jam-mng@ml.gakkai.ne.jp)

ホームページ: <http://square.umin.ac.jp/jam/>

円滑な事業推進のため、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。